

資源の有効活用による循環型社会の形成

～ 廃棄物の発生抑制、再利用、再生利用、適正処理の推進 ～

【重点分野の目標の達成状況】

一般廃棄物の減量・リサイクル

【目標：2000年度に対し、5%削減、再資源化率22%（2010年度）】

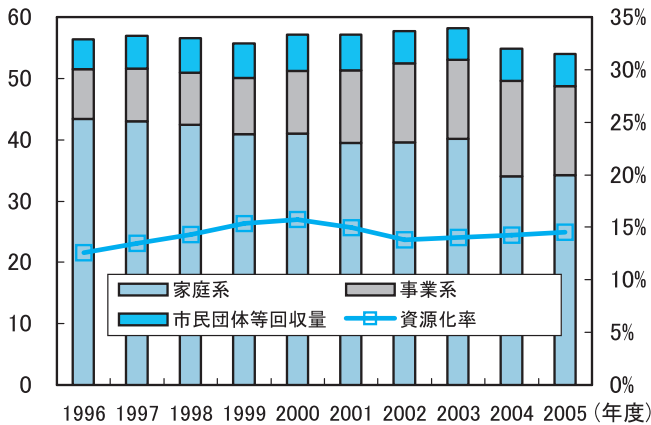
2005年度における市民一人一日あたりの一般廃棄物の排出量は、2000年度と比べ10.5%削減しました。また、再資源化率は14.5%です。

産業廃棄物の減量・リサイクル

【目標：産業廃棄物の排出量を1999年度レベルに抑制、再資源化率51%】

市域から発生する産業廃棄物の量は、463.4万トン（1999年度実績）から496.2万トン（2004年度実績）に増加していますが、再資源化率（資源化量÷発生量）は、58.2%となっています。

(万トン) 一般廃棄物の処理量と資源化率の推移



川崎市産業廃棄物実態調査結果（2004年度実績）

(単位：万トン、%)

	種類別排出量	業種別排出量	種類別再資源化量	業種別再資源化量
1	汚泥 204.8 (66.5%)	製造業 122.7 (39.9%)	鉱さい 154.1 (53.3%)	製造業 224.1 (77.5%)
2	がれき類53.8 (17.5%)	電気・水道業 92.7 (30.1%)	がれき類 50.1 (17.3%)	建設業 60.9 (21.1%)
3	鉱さい 16.2 (5.3%)	建設業 89.6 (29.1%)	ばいじん 39.9 (13.8%)	電気・水道業 2.3 (0.8%)

かわさきチャレンジ・3R推進中

収集体制の再構築・・・普通ごみ回収回数の見直し

本市では、現在普通ごみを週4回、資源物を週1回収していますが、他の自治体の普通ごみ2～3回と比較して多い回収回数となっています。また、休日明けの月曜と火曜日以降の作業量に大きな差が生じており、作業編成が平準化できず非効率な作業となっています。2005年4月に策定したかわさきチャレンジ・3R（川崎市一般廃棄物処理基本計画）でもこのような収集体制の見直しを掲げていましたが、2007年4月1日から次のように変更します。

普通ごみの回収日を週3回とし、「月・水・金」、「火・木・土」の2地区に分けて収集します
資源物の日を「月曜～土曜」の6地区に分けて収集します

ごみ収集体制の変更により、月曜から土曜までの作業量の差を小さくして効率的に収集するとともに、新たな分別収集品目の拡大を進めていきます。

2006年度は、この変更に関する周知を図るため、町内会・自治会への説明会の開催など市民の方々への普及広報に努めているほか、新たな分別品目であるミックスペーパーを一部地域でモデル収集しています。



第4次川崎市産業廃棄物処理指導計画の策定

この計画は、本市における産業廃棄物の計画目標、施策の体系化及び数値目標の設定を行うもので、これにより産業廃棄物部門からの循環型のまちづくりを目指します。

【計画期間】2006年度～2010年度

【計画目標】最終処分量の削減

【施策の柱】3Rの推進・適正処理の推進

【個別の施策】

- (1) 多量排出事業者制度の有機的な活用
- (2) 廃棄物自主管理事業
- (3) 不要な物に関する情報共有の取組み
- (4) 建設リサイクル法の推進
- (5) 再生品の利用促進
- (6) 中間処理の質的転換
- (7) 公共関与による補完
- (8) 特別管理産業廃棄物等の適正処理
- (9) 不適正処理対策

優良性評価制度(新たに取り組む施策)

電子マニフェストの導入(新たに取り組む施策)

4次計画における3つの数値目標

- ① 排出量...現状維持(2004年度の排出量3,078千トン)
- ② 再生利用率...34.3%(2004年度の再生利用率32.7%)
- ③ 埋立処分量...50%削減(2004年の埋立処分量124千トン)